



東京藝術大学広報誌『藝える』第9号

発行日  
2021年9月30日

編集・発行  
東京藝術大学『藝える』編集部

表紙の絵  
Kanna Takeda (大学院デザイン専攻2年)

編集長  
藤崎圭一郎

校閲  
西村 knack 雅彦

アートディレクション  
有山達也

編集  
小林沙友里

デザイン  
中本ちはる(アリヤマデザインストア)

事務局  
東京藝術大学社会連携課

写真  
富田里美 (P2-11, P16-25)

印刷  
シナノパブリッシングプレス

東京藝術大学も悩む。  
相談しよう、してみよう。



◎ 編集部より

『藝える』編集部では、皆様からのご意見・  
ご感想などをお待ちしています。今号の内  
容についてのご感想や、今後のご要望など  
ありましたら、こちらまでお寄せください。

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

東京藝術大学内 『藝える』編集部

Fax : 03-5685-7761

E-mail : [toiawase@ml.geidai.ac.jp](mailto:toiawase@ml.geidai.ac.jp)

# 藝 える



「藝える」は「うえる」と読みます。今回取り上げるテーマは「相談」です。アーティストや演奏家を志すなど芸術に関わることを選んだ学生は、自分で道を切り拓いていかねばなりません。しかし社会全体の先行きに不透明感が増している今日、自分ひとりで困難に立ち向かい、悩みや不安を解消するのは、誰にとっても荷が重すぎることかもしれません。人に語りかけ、人の話を聞き、語り合う。そうすることで暗かった視界に光が射しこみ、進むべき道が見えてくることがあります。そう、対話は創造の糧、相談は芸術の源なのです。今号では、悩める(?)学生編集員が本学の先生方に生き方・学び方について相談する記事をつくりました。私がカウンセラーの先生を訪ねる記事もあります。困難な時代を生きぬくヒント満載の「相談特集」です。

藤崎圭一郎／美術学部デザイン科教授・本誌編集長

## 目次

## 特集

01

### 相談しよう

02

あの先生が  
学生の悩みに答えます

### 藝える相談室

12

藝大には  
心強い相談のプロがいます  
相談のすすめ

16

すこし先のこと、だいぶ先のこと

### 女性のキャリアデザイン

24

アーティストと社会の接点を  
一緒に探る

### 藝大のキャリア支援

26

### 授業 SANKAN

「相談」で明日を拓け！

取手共通工房 + 素材表現演習編

DAY①金工鋳造・木材・石材  
DAY②塗装・金属表面処理・金工機械

34

### お知らせ

# し 相 談 よ う

相談、してますか？

実は、藝大にはさまざまな相談窓口があります。

公式なものだけではなく、“窓口”を空けている先生や友人もいます。

ちょっとした言葉を発してみると、そこで答えが出なくとも、

話す人・聞く人ともに、気づきがあるかもしれません。

さあ、相談しよう、してみよう。

# 相談室

## 藝える

あの先生が学生の悩みに答えます



相談される人  
**箭内道彦**

美術学部デザイン科教授



相談する人  
**高杉留奈**

美術学部デザイン科4年



相談する人  
**内田拓海**

音楽学部作曲科4年

CASE

1

文 =  
箭内道彦

自分なりの価値観で  
短所も面白く使う

写真=富田里美

相談  
しよう

私は成績がずっと良くて不安だ。こんな記事の書き出し、大勢の妬みを買うだろう、でも本気だ。少しでも評価が落ちることに恐怖し、成績というシステムに深く囚われている。友達にも相談できない。そんなわけで、『藝友』編集長でデザイン科教授の藤崎圭一郎先生から「他科の学生と箭内先生に相談にくつていう取材をやってほしいんだけど」という無茶ぶり(?)を受け、これはチャンス！

と思い、作曲科の内田くんと箭内道彦先生のもとへと出かけた。

「成績」に立ち向かう自分の価値観

箭内先生にはゼミでお世話になっているし、広告・デザイン業界での活躍はある程度知っているつもりだったが、こんなにすごいオフィスを構えているとは。と、驚きながら、出されたおいしいお茶をすりつつ、單刀直入に悩みをぶつけてみた私に、先生は言った。「僕の学生時代なんて、相当成績悪かったですよ」

現在の姿を見ていると意外に感じら



美術学部デザイン科4年

## 高杉留奈

たかすぎ／るな／歌、映像、平面、立体を総合的に組み合わせ作品をつくる。箭内教授の指導のもと卒制を制作中。YouTube →@たかすぎるな。

れるが、先生は藝大デザイン科の学生時代、作品は買い上げになつたなとか、誰の作品は先生がみんなうれしそうな顔で講評してたなとか、俺の講評時間は短かつたなとか、そんなこと散々気になつてね。気にするなつて言つてもやっぱそれは不可能で、30年以上経つてもこうやつて話すくらい相当根に持つてゐます。だから成績のことを消化するのは、非常に難しい。でも、結局本人がどこに価値を置くかだと思う」

先生に褒められることなのか、むしろ留年したほうが「あいつはなんか違う」と思われてかっこいいということなのか……!?

「やり切れた！って思えたら、それでひとつ自分に必要なことを成し遂げたと思つていいかも知れないし、もしかしたら、お前の描く絵いいねとか、お前の曲聴くと涙出てくるよとか言つてくれる人が一人でもいればいいのかかもしれない」

ふと隣を見やると、内田くんにも箭内先生の言葉が響いていたようだ。

「おそらくんですけど、作曲科って他の科より成績を厳しくつけられるんですよね。なので、そういうお話を聞くと気持ちが少し楽になります」

表現そのもの以外にも、モチベーションの保ち方、自信の育て方、人間関係の築き方——と尽きない藝大生の悩み。異なる分野で学ぶ学生編集員がペアを組み、デザイン科の箭内道彦教授、映像研究科映画専攻の諫訪敦彦教授、器楽科ピアノ専攻の有森博教授のもとへ相談しにいってみました。

短所を面白く  
使えば最強だね



美術学部デザイン科教授  
**箭内道彦**

やない・みちひこ／福島県生まれ。  
藝大卒業後、博報堂を経て、「風と  
ロック」を設立。数々の広告を手が  
けるクリエイティブディレクター。

えていくと思うんです。その代わり、  
長生きすることが大事。長生きする  
と、人生の後半で逆転劇に持ち込め  
るからね」

ちなみに、箭内先生のトレードマ

ークである金髪は、博報堂時代に自  
由な世界へ繩抜けするための試行錯  
誤だったという。初めて金髪に染め  
た日がウイキペディアに載っていた。

## 20代は苦しいけど、その先がある

「僕の役割は、そんなに成績悪くても教えに  
戻ってくるやつもいるんだとか、こんなに楽  
しそうに暮らしてやつもいるんだっていう  
サンプルになることだと思ってるんです」

学生の私たちから見ても箭内先生は本当に  
いつも楽しそうで憧れる。だが、今の自分を  
見つめると、ポリシーも揺らいでいるし、正  
直いつも不安だ……。

「僕はよく、20代に理解者はいらないって言  
つていて。ほとんどの人は20代のとき、否定  
されて無視されて、自分のことや自分の価値  
を誰もわかつてくれないと思いながら乗り越

生の金髪は一役買っているようだ。

「やっぱ自分を目印に仕立てないと忙しい相  
手って見つけてくれないから、金髪も目印の  
ひとつ。そういうのも大事ですよね」

## 短所も武器に。アイデアの出し方

自分の短所をさらけ出しすぎかもしれない  
が、私は常に自意識過剰だ。それがすごくコ  
ンプレックスでもある。そう伝えると、「長  
所を伸ばせって言う人がよくいるけど、短所  
で勝負しろっていうことだと思うんですけどよ」

と箭内先生。

「自意識過剰な人にしかつくれないクリエイ  
ティブって絶対あるから。例えば、ウジウジ  
してる人がいつまでも完成させずにいじり続  
けてるものがいつまでも完成させずにいじり続  
けたけど、しばらくしたら言われなくなつた。  
当時は、いつか自分で好きにつくれるように  
なつたら思いつきりやつてやるつて思つたた  
んだけど、そのリバウンドが今も続いてる状  
態ですね。だから、あの頃、抑圧されててよ  
うなつたなとも思つてる」

自分の売り出し方というのも藝大生にとつ  
て悩ましいところだが、その点でも、箭内先  
生を面白く使えると最強だと思う」

なるほど、そう考えると自分の短所も武器にできそうな気がしてくる。「自意識過剰」の翻訳に思ふを巡らせて、いると……「フノキ

自分でボツにしていたものや寸断していたものがつながって、ロジックが完成することもあるのだそう。

なりたいもの、の向こう側

シブルな箭内先生は次々と新しいプロジェクトを手がけていらっしゃいますが」と内田く

「街に出て、道ゆく人の顔を見ながら考えたりもしますね。この人たちに何を見せたらび

最後に、藝大卒業後、就職するか、しないでアーティストとして活動をするか、迷つていることについて相談した。

「アイデアが出ないってことは、ほんないん  
ですよ」  
すると箭内先生、答えて曰く、  
「アイデアが出ないつてことは、ほんないん  
わからなかつたりした場合、何か特にやつて  
いることはありますか?」。あ、それ気になるか  
たり、どういうふうに手を動かしたらいいか

そ、それは、アイデアにあふれた頭脳であるということ……？

「では全然なくて、オーダーされて

つくるものの場合は、そのオーダー や商品のなかに絶対答えがあるんで

す。つくつた人の思いだつたり、そ

れを受け取る世の中だつたりにいく

でも、とはいえたがな出ない

お酒を少々（笑）

そうやつて思考をリセットすると、



音楽学部作曲科4年

内田拓海

うちだ・たくみ／作曲だけでなく文学にも興味があり、短歌を詠み、脚本も書く。主宰する合唱団「葉桜」では指揮も行っている。

の果たす役割カリアルは実感できるのであ  
とは会議でどうしようつてなつたとき、トイ  
レに行つて思いついて戻ることもあつたり」  
ふと気づくきっかけをいろいろとつくるこ  
と、自分のなかで思考を切り替えることがボ  
イントのようだ。

自分の考え方を共有したいとか、それをなんとか見つければ、どうすべきか、気がつくはず多の人に届けたいなら、一人で作家を始めるよりマスを知ったほうがいいとかね」確かに、私自身も薄々気づいているのかもしれない。先にある自分の思いを見つめ直し

「何になりたいか、じやなくて、その先にある  
思いを見つけることが大事なんだと思いま  
す。例えば、たくさんの人を幸せにしたいとか、  
自分の考えを共有したいとか。それをなんと  
か見つければ、どうすべきか、気がつくはず  
多の人に届けたいなら、一人で作家を始める

確かに私自身も薄々気付いているのかもしれない。先にある自分の思いを見つめ直し、目の前の選択に向き合っていきたい。にしてもら、箭内先生の生き方や哲学は魅力的だ。私もそのように生きたいと頭では考えるが、やっぱり評価を気にしてお利口になってしまふ、「大丈夫、高杉の卒制、すごい悪い成績に」とくからさあ！」

笑つてそう言う箭内先生の金髪を見ていた  
ら、なんだか勇気が湧いてきて、好きなこと



## 今、学生のみなさんは 正解のない世界の第一人者です

映画と声楽、実はどちらも、人とのつながりが表現を豊かにする可能性を秘めている。しかしコロナ禍において、時に密にならざるを得ない映画は撮影を制限され、口を開かないうわけにはいかない声楽は対面レッスンが一時中断された。声楽科の泉水さんも映画専攻脚本領域の私も、仕方がないと物分かりのいいふりをしながらも、浮かばれない気持ちが顔に出ていたのかもしれない。

「視点を改めればかなりリアケースな時代じゃないですか。僕が学生の頃は大きな波風もなく、問題意識のないなかで生まれる表現にコンプレックスがありました。困難な環境にいることは、表現する者にとって原動力といえるかもしれないですよ」

監督という職業ゆえか話を聞かれるよりも聞くほう得意だと、諏訪さんは、私たちの言葉を丁寧に拾い、前向きな視点の転換を持ちかけてくれた。

### 表現できる人とできない人の差

とはいって、どんな状況でもやる気のコントロールは難しい。いつでも100%集中で

きるなんてことはなく、時間を無為に過ごしてしまったときもある。

「育んでいる時間だと考えましょう。常にやる気に満ち満ちているというのは稀ですよ。僕たって、迷つて自問自答して、やる気の出ない時間のほうが長い。そんなときは焦らない。たゞ、えいや！ってジャンプする瞬間は必要なので……例えば、ジャック・ドワイヨン（フランスの映画監督）が言つていたことですが、締め切りを設けてみるとか。時間をかければ良いものができるというのは私たちの幻想です。実際はそうじやない。音楽は発表の瞬間、映画はつくり終えた瞬間、作品として終わってしまうけど、それは完成形では

辛くて途中経過報告だと思うんですね。表現は延々続く。やる気は関係ない。いったん形にするために、えいや！をやるかやらないかです」

ただ、自分だけが足踏みをしているような焦りはなかなか消えない。

泉水さんがその不安を和らげる方法を尋ねると、諏訪さんは自身の経験を話してくれた。

きるなんてことはなく、時間を無為に過ごしてしまったときもある。

今、学生であることは特権だと思います



映像研究科映画専攻監督領域教授  
**諏訪敦彦**

すわ・のぶひろ／1960年広島県生まれ。『風の電話』が第70回ベルリン国際映画祭で国際審査員特別賞を受賞。フランスでの映画製作の機会も多い。

なくて途中経過報告だと思うんですね。表現は延々続く。やる気は関係ない。いったん形にするために、えいや！をやるかやらないかです」

ただ、自分だけが足踏みをしているような焦りはなかなか消えない。

泉水さんがその不安を和らげる方法を尋ねると、諏訪さんは自身の経験を話してくれた。

### 学校という守られた枠組みのなかで

自らを特殊だったと評する諏訪さんは学生時代、大学でのんびりしててはダメだと思いつつも、現場に出てADとして実践を積むことを選んだ。するとどうしても学校の仲間とのギャップを感じてしまう。

自分が実務的な力を伸ばしている間に、仲間たちは学校のなかで自由な発想でものづくりをしている。

「育む時間」と割り切れるか不安……



音楽学部声楽科ソプラノ専攻2年  
**泉水里奈**

いずみ・りな／埼玉県生まれ。13歳から声楽をはじめる。音楽を中心的に、最近はバレエや、ヨーロッパでの暮らしにも興味をもつ。

### 人とのつながりと自分への正直さ

しかし、未来を見る術を持たない私たちにとつて、今この時の評価軸が重要なものに思えてしまう。周囲に「すごい人」がいると、自分には才能がないと嘆き、どうすれば評価される何かがある、と諏訪さんは話す。

されるかと焦る。

「評価の軸は場所や人によってさまざまです。

先ほど大学というクローズな世界で育まれる柔軟さについて話しましたが、学内で評判がそれほどよくない作品が外で賞を取つたりもする。その逆も然り。表現はどこか一ヵ所だけで成立するものではありません。だからこそ、才能の有無の判断や評価軸を自分のなかや身近なところだけに求めてはいけません」

どうすれば評価されるかを考えて表現することは避けたほうがいいと諷訪さんは続ける。「やったものが売れるか否かはただの結果。売れる方法を考えると惑わされます。そうして自分と作品が乖離してしまう。自分とかけ離れたことをやつて評価されても、自分を苦しめる出会いになってしまします。もがきながら突き詰めることで、自分にしかできないものになり、その先にいつしか居場所ができてきます。もちろん認めてくれる「誰か」に出会うことは必要ですが、それはその『瞬間』さえ持てればいいんです」

私たちの迷いや揺れを受け入れアドバイスをくださる諷訪さんにも、人とのつながりを

眞っ暗ななか  
進んでいる気分です



映像研究科映画専攻脚本領域2年

**菊地真里那**

きくち・まりな／フランス留学中に出会ったソフィ・カル作品に傾倒し、学部時代は彼女を卒論テーマに。以後、写真が登場する映画に惹かれる。

とします。表現のためには、誰かとつながることが大切です」  
コロナ禍で学生にとつて悲運のは、物理的につながりを遮断され、こんなことで悩んでいるのは自分だけではと思ってしまうことだ。

「悩んでいるのは自分だけではない」と知るために、孤独にならないことが大切です。ただ、繰り返します

が、自分を突き詰めた結果、今いる社会から孤立することは悪いことではありません。自分自身への正直さを貫いていけばいいから

かとつながります」

どんな時代・どんな場所で生まれようとも、そこに『在るもの』でできることを、自分がどう認識し意識化していくか。ある環境ではみにくいアヒルの子であっても、どこか別の場所で白鳥として羽ばたく可能性は誰にだってある。変えられないものを嘆くのではなく、

そこでこそできる表現を見つけて突き詰めていくこと。私たちにできるのは自分を信じてひたむきに表現を紡ぎ出していくことにはかならないのだ。

友人に電話をして映画をつくる約束をしました。表現は孤独ですが、同時に社会性を必要



## CASE 3

文=島多璃音

### 自分に無理をしないでいれば 幸せが訪れる

#### 一番つらかった時期はみんなと同じ

「島多くんはどうやってコロナ禍を切り抜けたんですか？」

先生を質問攻めにしようと意気込んでいた矢先、質問の先制パンチを食らった。なぜ学生の私たちにそんなことを聞くのか……それは、現役のピアニストであり、留学や国際コンクールなど厳しい環境を経験している有森先生も、人生で一番しんどかつたのは今回のコロナ禍だったからだ。

「演奏会が立て続けにキャンセルになるのは初めての経験でした。落ち込みましたね」  
先生も学生も関係なく、同じ気持ちだった

緊急事態宣言の発令、新規感染者数の急増……コロナ禍を象徴するダブルパンチにより、8月下旬に大学で開室予定だった有森博先生の「相談室」は急遽オンラインで開かれることになった。ピアノ専攻生は担当教員以外の先生と話をする機会は多くないため、有森先生とこのようにお話しするのは初めてである。期待と緊張を胸に秘め、ZOOMにアクセス。楽理科の宮島さんも入室し、相談が始まった。



音楽学部器楽科ピアノ専攻3年  
**島多璃音**

しました・りいと／ドイツ生まれ兵庫県育ちの日本人。教養不足を自覚し、コロナ禍になってからは月に10冊程度の本を読む読書家に。

緯を伝えると、先生がコロナ禍で大事にしていたことを話してくれた。

けたらいいか、よりイメージが湧いてくる。そこが教育の面白いところだと感じています」

けたらいいか、よりイメージが湧いてくる。そこが教育の面白いところだと感じています」

人間は複雑だから難しい」と言いながら学生に、「心理カウンセラーミたいですね」と宮島さんが一言。

「本当にそう（笑）。人間を見る目が養わられたのも、この大学で教え始めて良かつたと申うことの一つですね。みんな繊細なものをもつてピアノを弾いているんだなと思います」

ガツガツといったほうがいいの……？

学生との積極的な交流について教えてくれた有森先生。さぞかし同級生とも幅広い交流



音楽学部楽理科5年

宮島菜々子

みやじま・ななこ／幼少よりピアノを学び、大学ではパイプオルガンの虜に。ベートーヴェン晩年作品の研究。現代アート業界にも関わる。

プレッシャーって

プレッシャーって  
どうしてますか

102

自肃生活によつて精神的に苦痛を強いられた  
ている学生も全国的に多いといわれる。私も  
自肃期間中に目標を見失い、身体の不調も相  
まって回復するのに時間がかかつた。その経

**悩んだときは人と話す！**

なによくしゃべる子だつたんだとか普段見えないことが見えてきて、その学生が奏でる音楽と共に通していることがいっぱいある。そういうところが理解できると、どんな言葉をか

ことに気がつかされた。しかし、先生はすぐにこの状況を受け入れ、今まで取り組めなかつた曲の練習をするなど、うまく乗り切る方法を考えるポジティブ思考が発動したという。「今やらないと一生やらない曲や、時間が足りなくてできなかつた曲の譜読みを始めました。コロナと譜読みみ、どつちが先に終わるだろうっていう感じだけね……（笑）」

カツカツいくの  
疲れちゃいます！

があつたのでは、と思いきや、「実はすごい人見知りで」。藝大生時代は、ピアノ専攻同士で仲良くなることがほとんどなく、他の楽器や声楽の学生と過ごすことが多かったそう。「ピアノ専攻は神経質な人が多かつたから、違う専攻の人と話すと楽でした。例えば打楽器の伴奏では、一人で弾いているときには出さないすごく大きな音を出して大丈夫で、伴奏に楽しさを見いだしたこともあります」

なかには今も交流が続いている人がいるそうだが、すごい人見知りの先生がどこで今の仲間と出会ったのか……伺うと、ソルフェュー

ジュのクラスが一緒、授業の席が隣、たまたま伴奏の役が回ってきたなど、自分から積極的に話しかけたわけではなく、時

場所の偶然の出会い、縁を大切にしていた。オンライン授業が主な今だからこそ、「偶然の出会い」を大切にしていきたいものだ。

宮島さんが人ととの関わりに関連して、こんなことを話した。「今、SNSで自分が発信できる人が見えやすい。心の余裕がないと発信でき

人間は人と話さないと  
生きていくもののです



音楽学部器楽科ピアノ専攻教授

## 有森博

ありもり・ひろし／岡山県生まれ。藝大の大学院、モスクワ留学を経て現職。積極的に演奏活動を展開している。SNSには門下生との写真も多い。

ないと思うし、見ても疲れちゃうんです」

「自分で自分でプロデュースする実験台を使うのは面白いと思います。やっぱり発信のうまい人を見るとすごいなと思いますね。でも、1日の生活がSNSに縛られたり、反応の有無が気になつたり、SNSに“使われる”感覚があるなら、逃れてストレスをなくしたほうが楽だと思いますよ」

自分らしく生きると、自分を受け入れてくれる人が現れるから大丈夫だと、有森先生は背中を押してくれた。

「やつぱり自分に無理をしないでいることに

よつて、結局は自分に幸せが訪れると僕は思つにしていく」。その心は？

「どういう準備をしたら、どうなつたか、さまざまなかに残していく、それらを振り返つてみるといろいろ見えてくる。そして、次はどうするかを整理すると、

ステージに立つ日に向けてどういう努力をしないといけないのか、優先順位が出てくる。この試行錯誤が、面白いと思うところですね」

相談というのも、次の“ステージ”に向けて、思考を整理するために必要なことなのかもしれない。心の重荷が少し軽くなつた気がした。

つてます。例えば人見知りの人が無理してガッガツいったつて疲れちゃうでしょ（笑）」

## プレッシャーとの向き合い方

最後に、宮島さんから本番のプレッシャーとの付き合い方についての質問が。宮島さん

は楽理科だがピアノも学んでいて、プロの演奏家に“緊張”について聞きたかったそうだ。

有森先生も「緊張しますよ」と言い、そして緊張するという現象の“その先”を話してくれた。「プレッシャーも当日のお楽しみの一つにしていく」。その心は？

「どういう準備をしたら、どうなつたか、さ

まざまな経験を自分のなかに残していく、それらを振り返つてみるといろいろ見えてく

る。そして、次はどうするかを整理すると、ステージに立つ日に向けてどういう努力をしないといけないのか、優先順位が出てくる。

この試行錯誤が、面白いと思うところですね」

プレッシャーを受け入れ、成長していく。相談というのも、次の“ステージ”に向けて、思考を整理するために必要なことなのかもしれない。心の重荷が少し軽くなつた気がした。

藝大には心強い相談のプロがいます

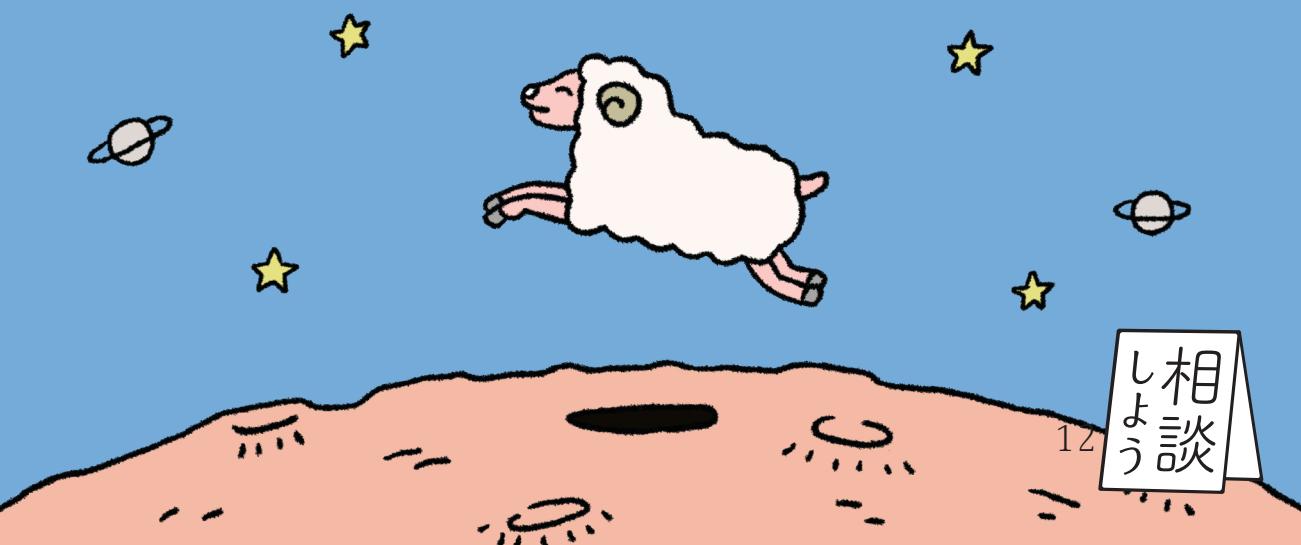
# 相談

の

すすめ

藝大には相談窓口がいくつもある。自分ひとりで解決できない悩みや不安を抱えているのなら“人の話を聞くプロ”がいる部屋を訪ねてみてはどうだろう？ 公認心理師と臨床心理士の資格をもつカウンセラーが相談に乗ってくれる「学生相談室」と「特別修学支援室」への取材を本誌編集長が敢行した。

相談  
しよう



## 学生相談室はよろず相談室

「どこに相談しにいっていいかわからないときは、まずここに来て話をしてももらえるといいですね」と学生相談室のカウンセラーの小坂宏子特任准教授は言う。学生相談室は上野校地の大学本部棟1階にある。

「昨年からはオンラインと電話での相談も受け付けるようにしたので、上野にあるこの部屋までなかなかたどり着けなかつた取手や千住、横浜の校地に通う学生や海外にいる学生も相談しやすくなつたように思います」

相談は予約制。寄せられる相談はさまざまだ。人間関係のこと、将来のこと、自分の性格のこと……。まずは話を聴き、相談内容によつては、学内の他の相談窓口を紹介する。医師の診察が必要そななら保健管理センターに、困りごとが授業に關することで教員による配慮が必要そな場合は特別修学支援室に話をつなぐ。

「自分の問題点はこうだから、この方向で解決しなくてはと思い込んで相談に来る学生もいるのですが、相談室では、問題をひとつひ

とつ一緒に整理しながら解決方法を考えています。ですから気負わずに相談に来てもらえばと思います。自分の悩みは特別だから誰にもわかつてもらえないと思っている人もいますが、不安に思わず来てもらえればよいですね」

自分が何をしたいのか。私はこのままこの道を進んでもいいものだろうか。学生たちの悩みは深い。「美術学部の場合は、デッサンの技術などを予備校でたき込まれてきて、大学に入った瞬間、技術のことではなく、あなたは一体何を表現したいのって問われる。そのときにものすごく苦しくなる。それが美術の学生に多い悩みですね」。たしかに筆者が教鞭を執つているデザイン科の学生にもこのケースは多い。

「専門的にはネガティビティ・バイアスとい

いますが、実は人間の脳は、生命の危機を回避するために危険なことや悪いことにまず着目するようになります。そのため意識しないと、悪いことばかりを探し出して、自分はダメだと思い込んでしまうんです」

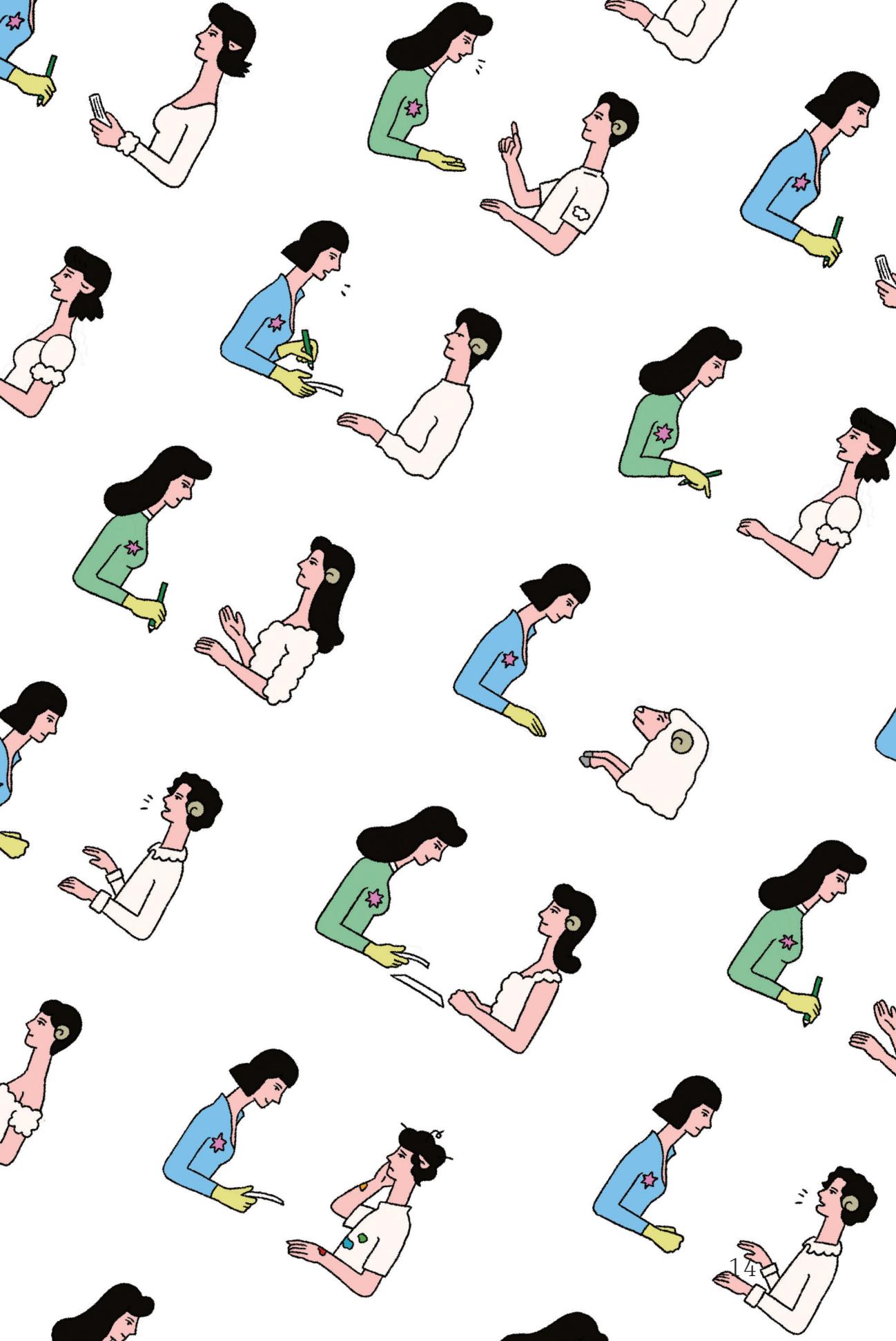
「ネガティブなものは見ないことにしても湧いて出てきてしまいます。なので、ネガティブなことは蓋をせずじっくり味わう。失敗を受け止めて進むほうが、なかつたことにする

イブなことが3以上の割合でないと人の心は安定を保つことができないとする研究もある。

「自己肯定感には2種類あるのですが、実は条件付きの自己肯定感であることが多いんです。テストで百点をとつたから私は素晴らしいと思うのは条件付きですよね。作品を教授がみんなの前で褒めてくれたから私は優れているというのも同じで、条件を誰かが満たしてくれないと自己肯定感が下がってしまいます。一方、人がなんと言おうとこれでいいと丸ごとの自分を受け入れられる人は、無条件の自己肯定感が高い。自分がこれが良いと突き進んだ先に、オリジナリティが生まれるのではないかと思います」

ネガティブなものを見がちな人には、ものごとの良い面や、自分ができることに目を向けられるようにサポートする。ただし、ネガティブなものを見ないようにするわけではない。

「ネガティブなものは見ないことにしても湧いて出てきてしまいます。なので、ネガティブなことは蓋をせずじっくり味わう。失敗を受け止めて進むほうが、なかつたことにする



より立ち直りは早いんです。ポジティブな感情は視野を広げ、世界を広げます。それは、難しいことでも性格の問題でもなくて方法（スキル）を知っているかなんです。なので、学生たちがそんなスキルを身につけられるよう、伝えていきたいと思っています」

### 大学での困りごとは特別修学支援室へ

特別修学支援室も上野校地内、食堂キャットルが入った大学会館の入り口の脇にある。この部屋で相談に乗ってくれるのはカウンセラーの遠藤三枝子特任准教授だ。

「ここでは大学のことに関する相談を受けています。授業や履修のこと、制作や演奏のこと、先生との関係だつたり」。予約優先だが、予約なしでも時間が空いていれば話を聴いてもらえる。オンラインや電話やメールでの相談も受け付けている。

大学のことという縛りはあるものの、もち込まれる相談はさまざまだ。視覚障害や聴覚障害があつたり、手足が不自由だつたりする学生が授業を受けるにあたつて困つたことがあれば、本人の意向をよく聴いたうえで支援

する。実際に授業を見にいき、教員に配慮を求めたり、設備面の改善を促すこともある。

発達障害や精神障害など周りの人が気づきにくい生きづらさを抱えている学生の場合、自分の特性を先生に直接言いづらいので、間に入つてつないでほしいという要望もあると

いう。

「調子の良いときと悪いときが交互に来る学生ってわりといるんです。ふだん潰刺としている子がパタツと学校に来なくなる。そのような場合、指導する先生に、この学生はこういう特性があるとお伝えします。そうすることで、先生に不真面目だと誤解されているのではないかという学生の不安が解消することもあります」

教員に紹介されて来室する学生も多いとい

う。保護者や教員の相談も受け付けている。

「この子どうしたらよいでしょうかと先生が一人で来られるときもありますし、助教と助手何人かで來ることもあります。よくお伝えするのは、一人で抱えないでくださいと。いろんな先生にお会いして、先生方も孤独だなって感じるんですよ」

「予約なしにふらっと来て、病欠でテストが受けられなかつたけどどうしよう、と言つてくる学生もいます。作品のアイデアがまとまらない、思つていることが言葉や文章にできぬという学生の話をひたすら聞くこともありますね。課題が書かれたプリントを見て、

2人でうーんと考えたり」

15分で終わる相談もあるが、時間のかかる

ものもあるという。

「自分の言葉をじっくり聞いてもらつた経験がない学生は、言葉を人に受け止めてもらう

という体験から始めます。こちらはじっくり待つて、ぽつと出てきた言葉を味わう。言葉を耕すんです。それを4年間やつた学生もいました。卒業制作を見たときは、その学生の道のりがわかつて、最終的にこうなつたんだって感慨深かったです」

教員に紹介されて来室する学生も多いという。保護者や教員の相談も受け付けている。「この子どうしたらよいでしょうかと先生が一人で来られるときもありますし、助教と助手何人かで來ることもあります。よくお伝えするのは、一人で抱えないでくださいと。いろんな先生にお会いして、先生方も孤独だなって感じるんですよ」  
「予約なしにふらっと来て、病欠でテストが受けられなかつたけどどうしよう、と言つてくる学生もいます。作品のアイデアがまとまらない、思つていることが言葉や文章にできぬという学生の話をひたすら聞くこともありますね。課題が書かれたプリントを見て、談に行きます。

藝大の相談窓口  
一覧は[こちら](#)



すこし先のこと、だいぶ先のこと

# 女性の キャリア デザイン

芸術を仕事にすること。既存の型にはまらない、自分らしい表現をすること。そして、ひとりの女性として充実した人生を実現すること——。アートを学び、かたちにするために、今できること、そしてこれからに向けて備えておくべきこととは? 学生編集委員が、芸術の道と人生の先達である教員に誌上「相談」します。



毛利悠子

大学院美術研究科  
グローバルアートプラクティス講師



野々下由香里

音楽学部器楽科古楽専攻教授



樺村芙実

美術学部建築科准教授

**渡邊** 本日はよろしくお願ひいたします。私は薬理科の3年で、現在、就職活動中です。

芸術の道には信念を持つて進んでいけそうでも、社会を視野に入れると、その瞬間に自分が勉強していることとのズレを感じてしまつて……。先生方が芸術を自分のキャリアと定めたときのこと、学生時代と比べてどのような変化があつたのか、お伺いしたいです。

**毛利** よろしくお願ひします。えーと、うまく話せるかな（笑）。私は2004年に大学院で藝大に入つて、2年間勉強して映像研究科の立ち上げのお手伝いをした後、この先どうしようかと思つた頃からアーティスト・イン・レジデンスに応募するようになります。アルバイトをしながら、国内外のレジデンスに行つて刺激を受けて、という季節労働的な生活をしばらく続けて、15年に半年滞在したニューヨークでなんとなくやつていきたい方向性が見えてきたこともあつて、フルタイムアーティストになつた……という感じ？

アルバイトとの二重生活は、レジデンスで集中して作品をつくりたいというモチベーションがあつたので、苦にはならなかつたです。

**樫村** 私は大学院を出たとき、先生方に就職を勧められたんです。でも「あなたには合わないかもね」とも言われていて（笑）。ひとりでやつていくタイプなんじやないかという示唆だったので、自分でも外に出たい気持ちはあって、せっかくなら誰にも頼れないところがいいと想い、1年のビザをとつてアイルランドの建築事務所に入りました。フルタイムで働きながら、安いチケットでいろんな国に行つて、有名無名問わず建築をたくさん見て回れたのは、いい経験でしたね。ビザが切れて帰国した際、新任の教授が助手を探していた際に声をかけてもらつて、大学で仕事をしながら自分の事務所を立ち上げ現在に至ります。

今の働き方は、当時の建築科の助手の方々がロールモデルになりました。仕事を手がけながら事務所を持つて大学でも教えて、という方々がけつこういて、なかには結婚して子供のいる方の姿もちらほらいたので、たらデビューが決まつて、歌劇場で歌うことできたんですが、樫村先生と同じく、コンクールを受けがていろいろな国を訪問したのは楽しかつたです。戻ってきたのは1990年ですから、まだ皆さんのが生まれていない頃ですよね（笑）。結婚してすぐに2人の子どもができたので、フリーランスの歌手として活動しながら子育てをして、上の子が4歳になったときに私立の音大から非常勤の誘いがあり、教えることと歌手の両輪でのキャリアを始めました。藝大に戻つたのは、2000年に古楽専攻ができたとき。古楽は、作曲家が生きていた時代に立ち戻つて、当時使われていた楽器や歌い方を掘り起こしながら再現を試みる学問なのですが、自分はあまり人がやっていないジャンルで貢献していくるタイプではないかと学生時代から感じていましたし、フランスで古楽に触れた経験もあつたので、招いていただけたのかなと思つていてます。

### 他の人には、自分のよさを磨く

**野々下** 私は大学院在学中に、フランス歌曲の勉強をしに2年間パリに留学しました。人に勧められてオペラのオーディションを受け

**菅野** 先生方はすごいなあ、と思いながらお話を聞いていました。私は今デザイン科の3



音楽学部器楽科古楽専攻教授

### 野々下由香里

ののした・ゆかり／1985年音楽学部声楽科卒業、90年大学院音楽研究科修士課程声楽専攻修了。2012年より現職。パリ留学中の89年、レンヌ・オペラ座の『フィガロの結婚』でデビュー。現在もソプラノ歌手として演奏活動を行う。



『フランソワ・クーブラン生誕350周年記念演奏会』にて  
(東京藝術大学奏楽堂、2018年10月)

毛利 藝大で教わらないことのひとつが「作品の売り方」ですよね。とくに現代アートだと、そもそも「何が価値なんだ?」と問われるとき、私もまだ答えが出ていなくて。レジデンスで制作費や生活費を期間限定でもらひながら育ててもらったり、助成金を受けたりコミュニケーションワーク(委託制作)をしたりするなかで、自分のしたいことと照らし合わせて「なんとなく生きていけるかも?」と思えたのは、つい最近のことです。

野々下 音楽家も、ギャランティのことは本当にわからないんです。もちろん一律でもないです。最初の頃は「来る仕事は絶対に受けなきゃ!」という思いから、2日続けて違うタイプのコンサートに出て喉を壊したりしていました。でもそのうちに、他の人にはない自分のいいところを見つけることが、難しいけど大事なのかな、と気づきましたね。

菅野 ああ……。

野々下 そうして「やつてよかつた」と思える体験を重ねていけば、自分でも充足感が持て、自信がつくというか。音楽家の場合だと、演奏や歌はうまいけれど自分を宣伝すること

年ですが、並行してフリーランスでデザインの仕事を始めて3年目です。休学して1年間、仕事に専念した時期もあつたのですが、クラシックとのゴタゴタで心を病むレベルのことも経験しました。今の仕事があまり自分に合っていないんじやないかとも感じていて、合う仕事つてどう摸索していくたら見つかるんだろう、と思っているのですが。

桜村 うーん、仕事のことは……大変なことばかり、ですよね。

毛利 ハハハ! 確かに。

野々下 合わない仕事をやって、終わつた後

「ああ、こういう値段なんだ」と腑に落ちたり、お金に関係なくやりたいこともあるんだと思えたりして、自分のなかでだんだん価値観ができてきたように思います。

毛利 藝大で教わらないことのひとつが「作品の売り方」ですね。とくに現代アートだと、そもそも「何が価値なんだ?」と問われるとき、私もまだ答えが出ていなくて。レジデンスで制作費や生活費を期間限定でもらひながら育ててもらったり、助成金を受けたりコミュニケーションワーク(委託制作)をしたりするなかで、自分のしたいことと照らし合わせて「なんとなく生きていけるかも?」と思えたのは、つい最近のことです。

が全然できない人がいる一方、多くの人を巻き込みながら仕事をしていくタイプの人もいる。今はさまざまなメディアがありますから、やっぱり多角的なアプローチができる人がこれから強くなってくるのかなと思います。もちろん、教員としては、才能があつてちゃんと音楽に向き合っている人を見逃さないようにしたいと思っていますが。

毛利 こういうことって、自分で必死に探さないとなかなか見えてこないことはあるんですね。でも、私がシアエアすることができる情報ならぜんぜんシアしますよという気持ちです。

### 「ドレスを着ない」自由もある

丸山 お話、すごく参考になります。ひとつ、ずっと考えていることがあって……私はヴァイオリン専攻でクラシック音楽をメインに学んでいるのですが、クラシックは女性、男性がはつきり分かれています……私はヴァイオリン専攻でクラシック音楽をメインに学んでいるのですが、クラシックは女性、男性がはつきり分かれている文化のなかでできた音楽なんですね。そのなかにいると、女性には女性らしいアーティスティックであることを求められていると感じる場面が多々あって、現代を生きる私たちはそれとどう折り合いをつけたらしいのか?と。

野々下 ストレートの長い髪で、優雅にドレ

イストであること求められると感じる

野々下 うーん。私が専門としている古楽は、男性も女性も、なぜかすごく自然体の人が多いんですよ。世界的にも、取り入れてもいるんですが、クラシック以前



右から

### 音楽学部楽理科3年 渡邊真衣

わたなべ・まい／友人、家族のほか、楽理科の教授もよき相談相手。「なんでもお話を聞いてくださるのが、とても心強いです」

### 音楽学部器楽科 ヴァイオリン専攻2年 丸山怜子

まるやま・りょうこ／コロナ禍も学業、演奏活動に注力。でも「学校の行き帰りに、友だちと偶然会って話す楽しさ」が恋しい

### 美術学部デザイン科3年 菅野美音

すがの・みお／学業の傍ら、フリーでグラフィックデザインなどを手がける。「先生方のお話を聞き、内省になりました」

の音楽つて、人の根源的な部分を揺さぶるような、ワイルドなものという感じがするんです。だから、そういう時代のことを考えると、ちょっと気持ちがスッキリするんじやないでしょうか。「なんでドレスなの？」たかだかここ400年の話じゃん」つて。

丸山 アハハ！

野々下 そうですね。そういう素朴な部分に魅力を感じる人たちだから、飾らないのかも。

毛利 現代アートでも、「アジア人の女性作家に、こういう作品を」という想定で依頼されることがあります。私はわりとひとりで、花なんか使わないよ」「カラフルなものには絶対しない」と、コンクリートの塊だけをポンと出してみたり(笑)。

樺村 フフフ。

毛利 それが認められないんだったら、また別のところで頑張ればいいやつて。ただ、逆にいうと、女性であるということで、女性作

家にフォーカスした展覧会へのオファーを受ける機会もあるんですね。だから、変に期待に合わせて振る舞うではなく、そのときのときで自分自身について考えて、多様な表現をしていけたらいいのかな。

毛利、野々下（うなずく）



樺村 私も「女性建築家だから」と意識することはないですね。もともと建築は、依頼してくださる方の意思をどう汲み、どう形にするのが仕事。それに、自分のものではない、自分で実際に釘を打つわけでもない仕事のなか

で、私っていつたいなんだろう?と……それを、毎回のプロジェクトのなかで考えていくことが設計の仕事なのかもしれないなあと思つたりします。

樺村、野々下

毛利 あと、アフリカの建築事務所にいたときに感じたことなんですが、向こうの女性は比較的子どもをたくさん産むので、産休を取っては戻ってきて……を繰り返しながらバリバリ働くんです。どちらかというと男性の方がルーズなくらいで(笑)。しかも、彼女たちはボディコンシヤスな服を着てすごくおめかしをしていて、現場に行くのを「ハイヒールが引っかかるちやう」と嫌がることもあるんですよ。女性らしくありつつ、仕事はバチッとやるのが、すごく新鮮だなあって。

野々下 いいですね。演奏家である以上、演奏の内容とともに見せ方も大事な要素ではあると思います。それでもやっぱり、自分の姿勢は示すべきでしょうね。服装にしても何にしても、「こういうことはやりたくない」ということはきちんと意思表示をして。

毛利 無理して相手の思惑に入つて、という



美术学部建築科准教授

樺村 芙 実

かしむら・ふみ／2005年美術学部建築科卒業、07年大学院建築専攻修了。21年より現職。11年よりTERRAIN architectsを共同主宰。日本とウガンダの2拠点で土地の個性をより強固にし、豊かにする建築のあり方を追求している。



「やま仙／Yamasen Japanese Restaurant」（ウガンダ、2018年）写真＝Timothy Latim

のではなく、「これが自分の表現だ」といえる状態に持っていくことが、シンプルだけど大切なことじやないかと思います。

**女性だから持てた、切り拓く力**

**菅野** 個人的にはやはり、これから の ライフ イベントへの向き合い方に関心を持つていま す。プライベートなことですが、今、遠距離 で交際している人がいて……。

**一同** おおーつ。

女性だから持てた、切り拓く力

そうすると相手はどうするのか、結婚や出産はどう選択していくたらいいのか、と……。野々下　ひとついえるのは、なかなか計画通りにはいかないということですね。私自身留学から戻ったあと、自分としてはまだパリに歌いに行きたかったんですが、結婚してすぐ子どもができたので、そこからの日々の中心はやはり子育てでした。もしかしたらその年代は、歌手としてはいちばん充実している時期で、友人がどんどん実績を上げたりしているのを見て焦ったこともあつたのですが今から思えば、子どもたちが育つてからの時

間を自分の研究に使うことができたんだな……とも。当時は、ただただ必死でしたけど、なんですが、あまり深く考えないようにしている、というか、これって選べることじやないんだなという気がしています。とにかく仕事ができる時間が限られているので、必ず誰か任せなくちゃいけないフェーズが出てくる以前は、自分にいただいた仕事だから「絶対自分でやらなくちゃ」「なんでできないんだろ」と思っていたのですが、どうしようもないこともあるのだとわかつて、「ごめんなさい、ここまでしかできません」と言える勇気が出てきたかな?と。もちろん、葛藤はありますのが、優先順位をつけたり人に頼ったりする力は養われた気がしています。

**野々下** 毎日毎日、段取りと計画の連続ですよね。そして、その計画が計画倒れになることも考慮に入れて……私はその頃、尊敬する女性の教授に「子育てしている間は大変だけど、そのぶん、上手に仕事を選ぶこともできるようになるんじやない?」と言われたことが、大きな指針になりました。

る。そうした人との信頼関係を築いておくことも、大学時代にしておくといい、大切なことのひとつじゃないでしょうか。

### ともに考えるのが「相談」です



大学院美術研究科  
グローバルアートプラクティス講師

### 毛利悠子

もうり・ゆうこ／2004年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業、06年大学院美術研究科修士課程先端芸術表現科修了。17年より現職。現代美術家として国内外で作品を発表。芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。



個展『ただし抵抗はあるものとする』(十和田市現代美術館、2018年～19年)より 写真＝小山田邦哉

渡邊 アドバイス、ありがとうございます。

私は実家暮らしなのですが、大学生になつてからは大事なことを相談するのは友だちにシフトしていたのが、コロナ禍で家にいる時間が長くなつて、家族と話す時間が増えて。今はおもに母が相談相手なのですが、そうすると答えも「ああ、そうだろうな」と想像のつく範囲のことが多くて……。(笑)だからこの1年半、どちらかというと安全策を取ることが多かつたかなという気がしています。

丸山 私は藝高(音楽学部附属音楽高等学校)

からの友人が大学でも引き続きだつたので、オンラインならいつでも相談できる環境にはあつたんですが、何か聞いてみようとすると、やっぱり一段階ある気がして……。こんな些細なことで連絡していいのかな?とか。

毛利 そう、なんとなくかしこまる感じですね。「わざわざウェブでミーティングするほどの

**毛利** 私も、長期の海外出張に出る前になんとなく結婚したという感じで、深く考えてなかつたですね。仕事も生活もライフィベントも、むしろ毎回、その場の判断力で切り抜けれる、綱渡りみたいな状態を面白がついていて。

**野々下** フフフ。芸術家は皆、そういう部分を持つっていますよね。それに女性は、もともと男性よりも人生にいろいろなことが起ころる境遇だつたから、自分の道を切り拓いていく力がついているんじやないかとも思うんです。

**桜村** そうですね。そして、経験してみて思

**野々下** 今を大事にしてほしいと思います。

**野々下** そして、こういったことを人に相談できるのは大事ですよね。「自分はこうしたい」と思ったとき、誰かに相談することで助言が得られたり、知恵を出してもらえたりす

話じやないな」「もうちょっとニュアンスで話したいんだけど」ということは、確かに、ちょっととしたストレスになってしまいます。

**野々下** 直接会いづらい状況下だと、コミュニケーションが難しいですよね。学生とともにうだし、教員同士も。

**毛利** それに、学生から相談されることって、教員にもすごく勉強になるんですよ。この間、ある学生から「私はこれからノン・バイナリ(non-binary gender・性自認に捉われない態度のこと)でやつていきたいんです」と言われたんです。性別も国籍も関係なく、一個の人間としてやっていきたいという主張を聞いて、「あ、すごく新しい相談がきた!」と思つて。

**一同** わあ。

**毛利** これまで私たちが捉えていたのとはまた違った視点で社会を見ている人たちが出てきたんだなあと。そういう相談を受けると、学校というのは、何かを教えるだけでなくむしろ一緒に考えていく場なのかもしれないな

と……。たとえ正解の答えがなくても、どうやって一緒に考えていけばいいのか、そのプロセスからオープンにしていけることって大事じやないだろうかと感じました。

**樫村** そうですね。でも、もし今、相談でき

大学のなかでも、社会に出てからも意味があることだと思います。今日、皆さんのお話を興味深く聞いていて、私は人に相談するのが下手だったなと思い出しました。

**野々下** 私も、あまり相談しなかったタイプ。う生きていけばいいかのような大きな相談じゃなく、「今日の晩ごはん、どうしたらいい?」みたいなことなんですね(笑)。

**一同** アハハ!



**毛利** そんなことからでも人に意見を聞くと、けつこう発見があつたり、インスピレーションのもとになりますので……。ふだん相談しない人も、ちよくちよくしてみると、んじやないかと思います。小さなことから。

**野々下** どんなかたちでも、この先困難には必ず遭うでしょうから、それをどんなふうに転換していくか困難それ 자체を含めて人生を楽しめるだろうか?と思ひながら、経験を重ねていつてほしいと思いますね。そして、その土台が芸術家集団である藝大だということ

は、本当に素晴らしいこと。年齢が上がれば上がるほど、きっと支えになると思いますよ。

## 麻生和子

あそう・かずこ／2005年日本の若手作家を支援する「団・DANS」を始動。アジアと米国の作家や研究者に交流活動の機会を提供する「アジアン・カルチャラル・カウンシル」代表理事。

### アーティストと社会の接点を一緒に探る



「どうやって食べてく?」「藝大生の就職先って?」……。藝大で学んできたことを社会でどう生かしていくか、悩む人も少なくないはず。キャリア支援室の麻生和子理事が富塚絵美特任助教と語る、藝大ならではのキャリア支援とは。

# 藝大の キャリア 支援

うことだらう、どうやつて  
生きていくんだらう、と。

### キャリア支援室って?

と、ちょっと不安を煽るような出だしになつたけれど、学生の皆さん、藝大に「キャリア支援室」があるのを知っていますか? ここは、学生や卒業生の進路相談と就職のサポートや、キャリア形成の支援を行う場所。このキャリア支援室でさまざまなア

イデアをかたちにしているのが、藝大の理事を務める麻生和子さんだ。2005年に、若手作家のプラットフォーム「団・DANS」を立ち上げ、作家たちと国内外で展覧会を主催したり、芸術家として自立するための活動支援を20年近く続けてい

る、いわばキャリア支援の大ベテラン。ちなみに、若手作家が「展覧会をしたくても貸画廊は高い……」などといった悩みを間近で聞く機会があり、その才能がもつと社会に生かされてほしいと強く思ったのが活動

「あなたも社会の一員です」という言葉をよく耳にするけれど、学生の間つて、そんなことを意識することもなく、がむしゃらに作品をつくつて、演奏して、一生懸命やるべきことをやりながら、忙しく毎日が過ぎ

ていくのではないかと思う。むしろ、自分は社会とは切り離された存在のような気さえすることだってあるかもしない。でも、とにかく今は「学生」という肩書があるけれど、卒業したら次の日からぼーんと社会に放

り込まれるわけだ。  
そんなことをぼんやり考えていると、とてつもなく独りぼっちのような気がしてきたり、こんな問題にぶち当たつたりする。働くってどうい

うことだらう、どうやつて生きていくんだらう、と。

を始めたきっかけなんだとか。

### キャリア＝生き方について考える

「藝大には本当にユニークな学生がたくさんいるので、いわゆる一般大

学の卒業生とは異なる道をたどつて社会に出ていくのが面白いですね。

ただその一方で、社会に出ていけない学生が多くいることも事実」と麻

生さん。学生たちからよく聞くのが、「卒制に必死だった」「藝祭で燃え尽きちゃった」「卒業後の道を考える余裕なんてなかつた」という声だそ

う。でも、ちょっと想像してみてほしい。目の前の制作も大事だけれど、卒業後に続く長い人生のことを。そこで麻生さんは、「学生のうちから

社会とのコンタクトを取ることがとても大事」だと言う。

「教室で隣にいる学生と比べて『うわ、私って才能ないかも……』と、人生を判断してはだめ。もつと広い視野で見てみてほしいんです。キャリア支援＝就職、という意味ではないんですよ。キャリアというのは、

働くことにつまつわる生き方そのもの。

藝大生の場合は、アーティストとしての生き方を考えることだともいえますね」

また、例えば、画家として生きていく!と決意しても、制作物への対

価や、ギャラントイの設定について

学生のうちからきちんと考えておくことは大事だろう。「お金のことは、卒業生からもっともよく聞く悩みの一つです。時給に換算してみたら最低賃金を下回っているよとか、経費の考え方や支払いについて交渉する必要性など、言葉にして伝えることが大切だと考えています」と話すのは、キャリア支援室特任助教の富塚

絵美さん。

藝大生だからこそ、生かせる場

「彼らは、いわゆる芸術家として暮らしているわけではありません。望んでいる場で思うように開花しなくても違う生き方があるし、芸術を

会社で働きながら制作を続け、今は教員をしている人など、多方面で活躍する人たちがたくさんいることに驚くはずだ。「藝大生は創造する力はあるけれど、その表現がすんなり社会に受け入れてもらえるかはわからない。人々とのコミュニケーションのなかで物事を進めていかざるを得ない」「経済や社会はどうなつていくのかということ、自分のものづくりや表現をリンクさせることは必要不可欠だ」など、自身の体験をもつて語る、動画で紹介されている先輩の言葉には、大きな説得力があるだろう。

迷ったり悩んだりしたら、キャリア支援室を訪れてみて。ここに来れば「こんな職業があったのか」「お金の使い方も考えないと」「新聞読むのも大事だな」「世界で活躍するにはやっぱり英語力も必要だ」など、将来の自分へのヒントが、転がつているかもしれません。

学んだからこそ多様性のある社会のなかで生かせる場があることも知つてほしいです。アーティストになることをめざして5年、10年と足踏みしているように思えたら、発想を転換してみてもいいのでは?」と、言葉に力を込める。

ア支援室を訪れてみて。ここに来れば「こんな職業があつたのか」「お金の使い方も考えないと」「新聞読むのも大事だな」「世界で活躍するにはやっぱり英語力も必要だ」など、将来の自分へのヒントが、転がつているかもしれません。



キャリア支援室特任助教

### 富塚 絵美

とみづか・えみ／東京藝大美術学部卒。同大学院音楽文化学専攻修了。アートディレクターとして藝大生や盲ろう者との協働プロジェクトなどを行う。

## 「ユニークな 相談しかきませんね」

金工工房 鋳造室

### 1700度の「黒魔術」を見た！

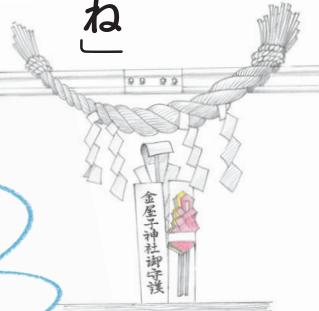
焦っていた。取手駅に着くまでの電車の中でも、取手駅からのタクシーの中でも。

上野東京ラインつて、すごく便利ですよね。でも、上野から先が二股（正確には常磐線、宇都宮線、高崎線の3線）に分かれているなんて、私や知りませんでした。予定より1本早い電車に乗れて、ちょっととうとうとして気がついたら、そこは大宮。大慌てで引き返し、1時間の大遅刻である。

「そろそろ始まりそうです」と編集・Kさんからのショートメール。あああ。何しろ今日は、年に数回しかないという特別な日なのだ。取手校地の共通工房、その金工工房鋳造室で行われる、ステンレス铸造に立ち会えるという。

タクシーを降りる！ 駆け出す！ ドアをバーン！（イメージ。実際には扉はすでに全開）一步踏み入れたそこは、すでに熱気のるつぼだつた。

充ち満ちる輻射熱のもとは、もちろん溶解炉で溶かされたステンレス。熱せられ、液状となつた



「親方」感あふれる赤沼教授。工房の一隅には神棚が設えられ、火の神に安全を祈願する

## 授業 SANKAN

「相談」で明日を拓け！  
取手共通工房+素材表現演習編

ひとりでも楽しい、そして、相談できる相手がいれば、作品づくりはもっともっと楽しい。コロナ禍なんて何のその、取手校地で繰り広げられる教師と学生、真剣勝負のものづくりの日常をご覧あれ！

挿絵=小柳景義 文=大谷道子



ステンレスは、目や肌をビリビリと刺激する原始のエネルギーを発しながらフツフツとたぎつている。まさに溶岩。それを、天井からクレーンで吊り下げた注ぎ口つきの器（取鍋）から、造形された作品の鋳型（金属やガラスを流し込んで造形するための型）に注ぐ「鋳込み」の作業が始まろうとしているのだ。

一度に溶かせるのは、100キロくらいかな。鋳込む温度はブロンズ（銅合金）が1200度、鉄が1550度ほどですが、ステンレスは特殊で、1700度もの高温なんですよ。大学でこの設備を持っているのは、たぶん藝大だけですね」と説明するのは、工芸科の赤沼潔教授。今日は大学院の授業であるセラミック実習のための铸造で、ワックスでつくった作品の原型にセラミックの耐火材をまぶして固めた砂型が、工房中央の耐火煉瓦の焼成窯の中に並べられている。

いよいよ注湯（溶けた金属は「湯」と言うらしい）。おおおお。注がれた液状ステンレスは、火花を飛び散らせながら型を発光させていく。もちろん超・超・超危険物ゆえ、作業する学生の装備

ステンレスは、目や肌をビリビリと刺激する原始のエネルギーを発しながらフツフツとたぎつている。まさに溶岩。それを、天井からクレーンで吊り下げた注ぎ口つきの器（取鍋）から、造形された作品の鋳型（金属やガラスを流し込んで造形するための型）に注ぐ「鋳込み」の作業が始まろうとしているのだ。

一度に溶かせるのは、100キロくらいかな。鋳込む温度はブロンズ（銅合金）が1200度、鉄が1550度ほどですが、ステンレスは特殊で、1700度もの高温なんですよ。大学でこの設備を持っているのは、たぶん藝大だけですね」と説明するのは、工芸科の赤沼潔教授。今日は大学院の授業であるセラミック実習のための铸造で、ワックスでつくった作品の原型にセラミックの耐火材をまぶして固めた砂型が、工房中央の耐火煉瓦の焼成窯の中に並べられている。

いよいよ注湯（溶けた金属は「湯」と言うらしい）。おおおお。注がれた液状ステンレスは、火花を飛び散らせながら型を発光させていく。もちろん超・超・超危険物ゆえ、作業する学生の装備

も万全。耐火服に頭をすっぽり覆う  
目出し帽、遮光ゴーグル、分厚い手袋  
姿でうごめく様子は、まるで黒魔術の一  
団。まあ、中世なら魔術の一種であつたこ  
とだろうし、現代でも十分神秘的である。

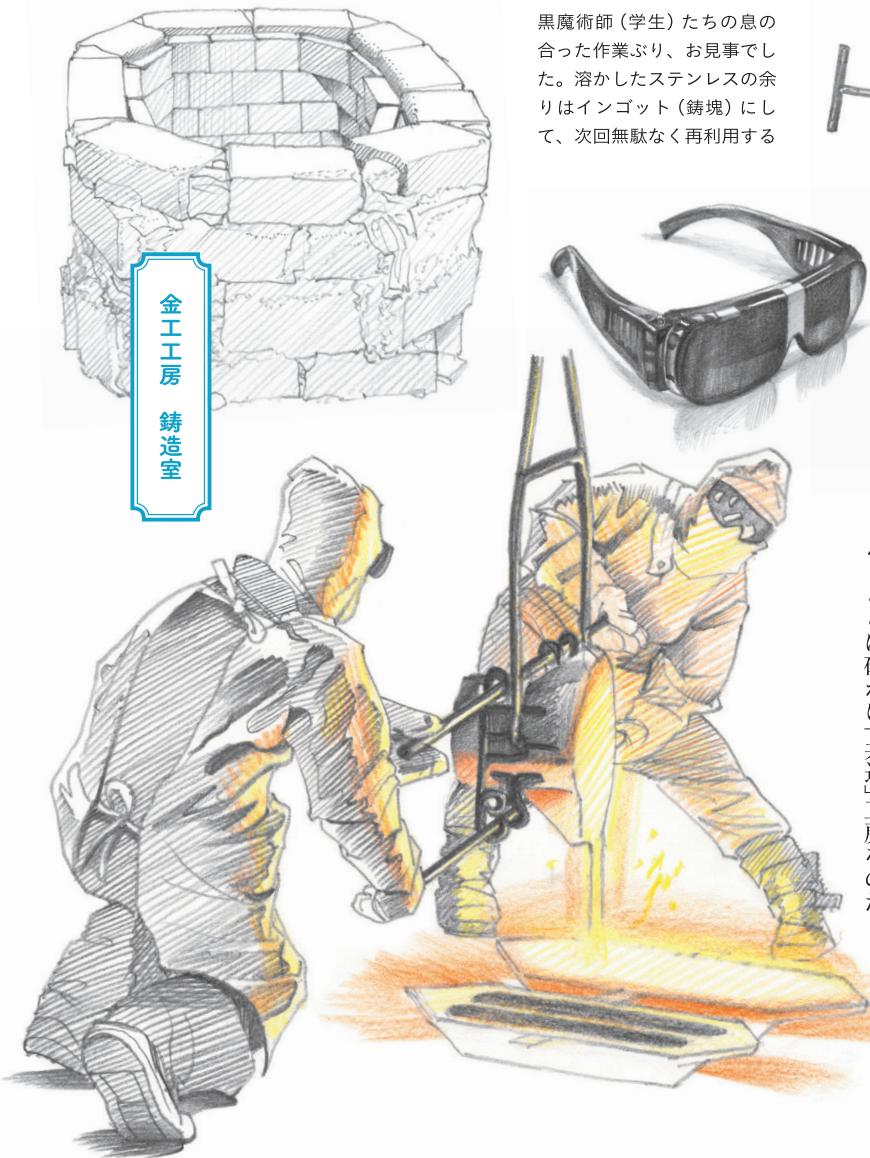
湯が注がれた作品は、型ごと水風呂へ（ジュー）。  
あつという間に風呂の中の水がボコボコと沸き立  
つ。冷やしてようやく触れる程度になつたところ  
で、型を外す作業にかかる。輻射熱に満ちた工房  
で金槌をふるい、キンキン、カンカン。ようやく  
作品の形が見えてくるが、型に金属が流れ込む  
「道」の部分もステンレスとして冷えて固まつて  
いるので、作品を傷つけないよう注意しながら手  
作業で取り除く。力業と慎重さの合わせ技だ。

熱い・危ない・荒々しいの「3A」作業。実際、  
ヨーロッパや中国の大学は、ほとんどが鋳造を工  
場に発注しているという。だが、  
「この工程を大学で経験する意  
味は大きい」と赤沼先生。  
「今後工場に頼むにしても、自  
分でつくり方を知っているか  
ないかで、関わり方がぜんぜん  
違ってくる。自分の作品に意識  
的になるという意味で、大事だ  
と思っていますね」

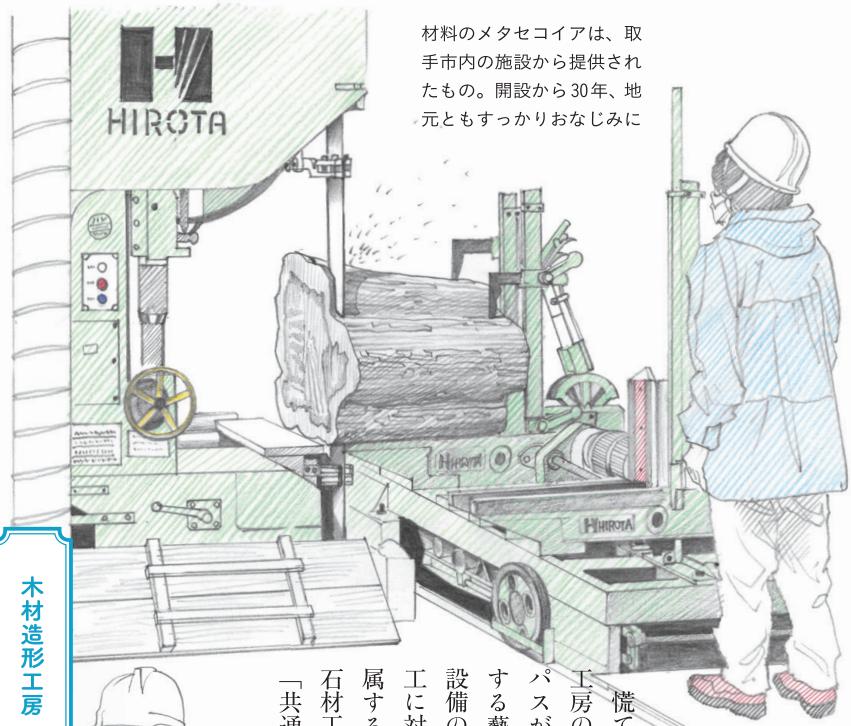
黒魔術師（学生）たちの息の  
合った作業ぶり、お見事でした。溶かしたステンレスの余  
りはインゴット（鋳塊）にして、次回無駄なく再利用する



実際、海外から鋳造を学びに来る学生も多く、  
この日もブラジルからの留学生（母国では硬貨の  
原型制作に関わっていたとか）が実習に参加。ま  
た、個展の作品づくりのために許可制で使用して  
いる卒業生もいて、それぞれがそれぞれの目的の  
ために工房に集い、共同しながら切磋琢磨してい  
る。ここは確かに「共通」工房なのだ。



材料のメタセコイアは、取手市内の施設から提供されたもの。開設から30年、地元ともすっかりおなじみに



## 巨木が生ハムのよう

慌てて飛び込んだので、ここであらためて共通

工房の簡単な説明を。共通工房は藝大取手キャンパスが設置された平成3(1991)年から稼働する藝大の教育・研究施設。上野校地では規模、設備の点で難しい大型の作品制作や特殊な機械加工に対応しており、現在は、先に訪れた鋳造室が属する金工工房、木材造形工房、塗装造形工房、石材工房の4つが開設されている。

「共通」の名は、その門戸が藝大の全学生と教員



目下唯一の心配は、設備の老朽化。長年稼働している工房の設備は経年で続々と故障の時期を迎えており、「どこかで異音がするとピクピクする」と赤沼先生。貴重な学びの場を維持するためにも、なんとか改修の予算を……鍛金術は、黒魔術のうちには入らないだろうか?

に開かれているゆえ。つまり、専攻を問わず、幅広い素材や技術に触れながら作品制作に打ち込むための実践の場と位置づけられているのだ。

枠にとらわれない作品制作のために各科精銳の若手教員が直接相談に乗ってくれるのも、共通工房の頼もしいところ。統いて訪れた木材造形工房でも、まさにその「相談」の真っ最中であった。

相談主は、映像研究科アニメーション専攻修士課程2年のKさん。直径1メートルはあるかというメタセコイアの塊を前に、園部秀徳講師をはじめとする先生方と打ち合わせを行っている。

「木材を扱うのは初めてなんです」というKさん。なんでも、修了制作にコマ撮りと手描きを組み合わせたアニメーション作品を構想し、その中で本物の木を使つたセットをつくりたいと相談を持ちかけたのだという。具体的には、木を1センチの厚さにスライスし、それを年輪に沿つくり抜いたものを重ねて山のように……つて、この巨木をスライスするんですか? 食パンですらまつすぐに切るのが難しいのに、どう見てもこれ、マンモスの肉(イメージ)くらいありますか。

「最初は5ミリって言われたんですけど、なんとか彼女に勘弁してもらつて(笑)。でも、もつと大きな木からチエーンソーで切り出すところから、頑張つてくれました。通常の木工の考え方だと、

丸太を四角くするなど繊維に沿った切り方をする

んですが、やっぱり発想が新しいですよね。まあ、

やつてみないとわからないというか……」

そういうしているうちに、Kさんと先生方はマンモス肉（木）をレールに乗せ、細く長い帶鋸の位置を目視で慎重に確認し始めた。初心者でも、最終的にGOサインを出すのは作者であるKさんである。「もうちょっと右です」「寄せてください」と意外に堂々とした指示ぶり。

スイッチオン。ブイーン、とお腹に響く音と振動を放ち、レールが動き始める。刃が当たり、木屑を散らしながら木が……おお、ヒラヒラと一枚、スライスできた！ まるで生ハム！ ブラボー！しかし、チャレンジングなKさんはもちろん、ユニーク（無茶？）なアイデアに惜しみなく技術を提供する先生方の太っ腹ぶりにも頭が下がる。

「確かに、ユニークな依頼しか来ないです。木に触つたことないのに家を建てたいとか、そういうのもありますし（笑）。月に2、3件こうした相談が舞い込み、そのたびにああでもない、こうでもないと皆で考えますが、でも、こうした発想を持った学生が現れることで、我々もまた新しい発見ができますので」（蘭部先生）

学生と教員、相談を重ねてともに前に進む。さ

あ、1枚切つたらまた1枚。Kさん、先は長いぞ。

## 石材工房

### 騒音と埃の中、黙々と

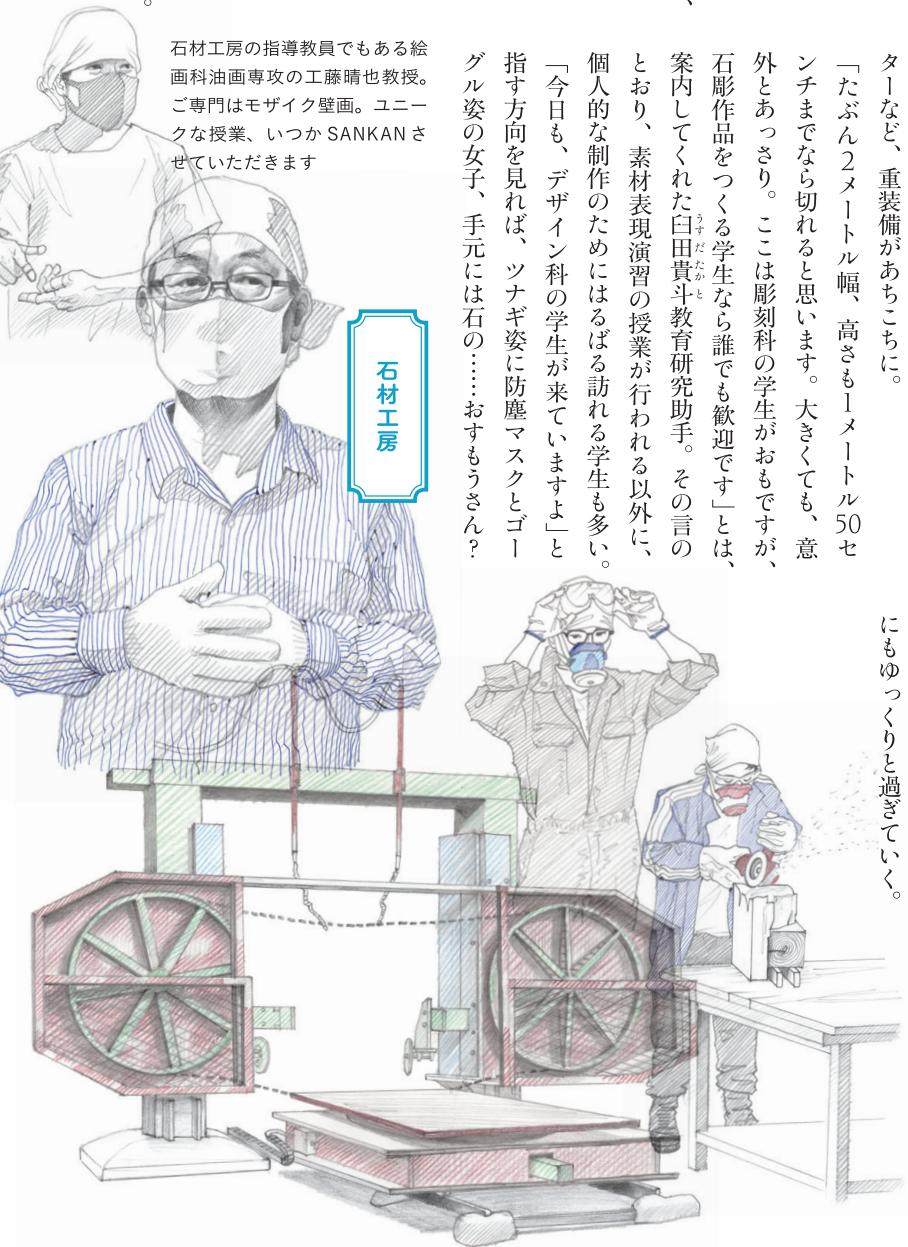
ダイナミックさなら負けてはいないのが、続いた訪れた石材工房。ちょっととした中規模工場ほど工房内には、大型クレーンや石切りの巨大カッターなど、重装備があちこちに。

「たぶん2メートル幅、高さも1メートル50センチまでなら切れると思います。大きくて、意外とあります。ここは彫刻科の学生がおもですが、

石彫作品をつくる学生なら誰でも歓迎です」とは、案内してくれた白田貴斗教育研究助手。その言のとおり、素材表現演習の授業が行われる以外に、個人的な制作のためにはるばる訪れる学生も多い。「今日も、デザイン科の学生が来てますよ」と指す方向を見れば、ツナギ姿に防塵マスクとゴーグル姿の女子、手元には石の……おすもさん？

「作品名は『くつろぐおすもうさん』。相撲、好きなんですよ。これは炎鵬に、ちょっとと鶴竜を混ぜた感じ（笑）。粘土と違つて削るのが難しいですけど、楽しんでやつてます」

外は晩夏の緑。真っ白な石を思い思いに削つて磨き込む、工房の満ち足りた時間が、騒々しい中にもゆっくりと過ぎていく。



## 「平らになれ、 そしてとんがれ」

塗装造形工房

### 漆は自分の今を映す鏡

広く深く多彩な共通工房、一日ではとても見きれないということで、再び取手へ（今度は電車の行き先をちゃんと確認。学びは大事）。最初は塗装造形工房で、学部生の素材表現演習を見学する。

スプレー缶でシュッシュと、という簡易な塗装も可能になつた現代だが、今日学ぶのは日本の塗装の原点ともいえる漆塗り。漆に触れるのは初めてという学生も多いため、ツナギで全身をカバーシ、手袋、マスクは必須、服と手袋の隙間もガムテープで補強するなどの念の入れようだ。一方で、青木宏 憲准教授をはじめとした教授陣はTシャツに素手という軽装で、年の功を感じる。「僕も最初は大かぶれしたんですが、毎日触つているところですがにね。皆さんも机とかにやたらに触ると危ないですから、気をつけて」熱いものや刃物、かぶれるものと、危険物が多いのは共通工房の共通事項ゆえ用心、用心。さて、本日の授業の課題は「自己を表現する面（仮面）」

塗り刷毛の毛は、40代くらいの日本人の、ややパサッとした毛が向くらしい。徹底した天然素材使いもまた漆の伝統



塗装造形工房

と創作に向くんですよ」と青木先生。植物由来の材料を丹精込めて準備し、人の手と時間をふんだんにかけて塗りと研ぎを重ねて仕上げる漆は、「手をかけなければかけるほど人の手の痕跡が消えていく、不思議な素材」。塗装業を営む家で育ち、塗りを熟知した青木先生も、作業を通して漆の真価を実感するという。

ちなみに、塗りや研ぎのとき（神経を使いそう）は何を考えていますか？と尋ねると「うーん、『平らになれ』ってことかなあ」と青木先生。一方で「YouTubeで動画を流し見、ですね。海外ドラマを一本、研ぎながら見たことも」という教員の方など、向き合い方はそれぞれのよう。

この日の夕方から行われた上塗りの作業は、さるに丹念だった。漆を和紙で濾し（含まれるホコリを取り除く）、濾した漆を塗り刷毛に含ませ、籠で突き出して刷毛の中の微細なチリも取り除く。そうしてようやく、塗り刷毛で面の各所に漆を「配り（＝配置し）」、のばし始めるのだが、これは力所からのばすことで生じる塗りムラを防ぐため。



演習室には簡単な金属加工のできる火床(ひどこ)も設置。学生たちはスケッチを手元に置いて、細密な作業を進める

それでも入ったチリは、白く細いペン先のようなもので拾い上げるが、この「節上げ」という作業に使われるのは、なんと孔雀の羽根の付け根(羽ペンにするところ)！ 節上げでついたキズも塗りムラも、漆が定着する過程で自然とのびてカバーしてくれるというから、実に優れた素材なのだ。

便利な道具でチヤチヤッと済ませることからは得られない伝統の手法を指導され体験することは、きっと学生たちの未来に時間を超えた豊かな示唆をもたらすことだろう。

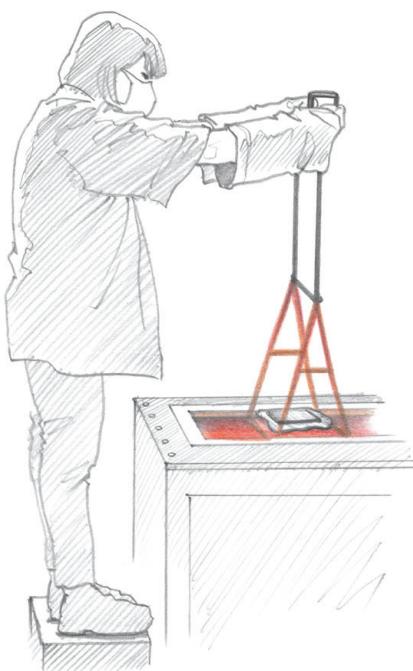
## 金工工房 金属表面処理室(七宝) 静かなる大人気教室に潜入

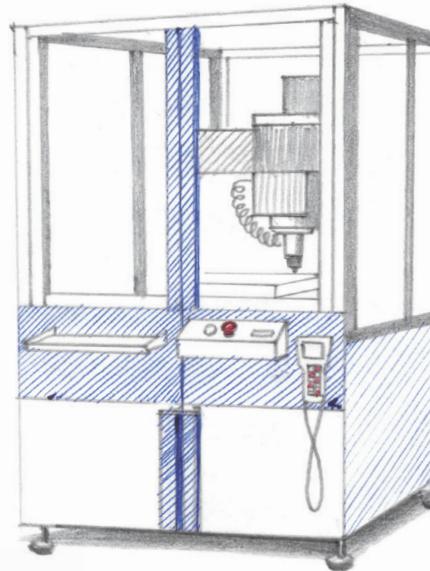
続いてお邪魔したのは、金工工房内の金属表面処理室。いかつい名前だが、ここで行われているのは優美な「七宝」の作品づくりである。

金、銀、瑠璃(ラピスラズリ)、玻璃(水晶)、砗磲(シヤコ貝)、珊瑚、瑪瑙からなる仏教の七つの宝に由来する七宝焼(つまり「すつごく美しいもの」の意であろう)は、銅や銀などの金属に色とりどりのガラス粉を乗せて焼きつける飛鳥時代からの伝統技。銀や金のリボン線でつくった下絵にガラス粉を詰めて焼き上げる「有線七宝」

をはじめ、粉の詰め方や焼き方、焼く回数、仕上げ方などで表現は実に多彩だが、こちらも漆同様、手間と時間をかけての作業で美しさを具現化する。「宝飾品のような小型のものから、大型の立体物まで、つくるものは本当にそれぞれです」と、テクニカルインストラクターの遠藤久美子先生。ちなみに、焼成するときの温度は740度。それを聞いて「あ、ちょっとぬるめなんですね」と感じてしまうあたり、共通工房に来てから温度感覚が麻痺してしまっている(普通に超高温です)。

実は藝大は、美術教育機関として古くから七宝とのつながりが深い場所。かつては迎賓館の内装の修復に関わった教授陣などもいたこの講座は、聞けば現在も学生から大変な人気で、受講できるのはかなりの幸運らしい。この日は学部生から大学院生まで、科もさまざまな学生たちがそれぞれの作品づくりに、黙々と取り組んでいた。





「こうした特別な手法なのですが、学生はそれを知ったうえで『こう、うことはできますか?』と相談してくれます。そうすると、こちらでも『じやあこうしてみる?』『これはちょっと無理だけど、同じような表現があそこでならできるよ』と検討することもできるので……。なにしろ、時間をかけてここまで足を運んで『やりたい!』と言つてくれる人たちですから、私たちもできる限りの手助けはしたいですよね」と遠藤先生。二つと同じものはない輝きは、美しいリレーションシップから生まれるので実感した。

**金工工房 金工機械室**  
**評価基準は**  
**「やりたいことができているか」**



時代劇俳優のような鋭い眼光  
だが、学生への眼差しは優しい田中先生。ない道具は自ら  
つくるのも、金工工房ならでは

ラストは、ふたたびの金工工房、今日は金工機械室の訪問である。第一、第二と2つの機械室は、

その隣で、何やら抽象的な形の照明をああでもない、こうでもないと苦心しながら組み立てる学生がいる。第二機械室では、歯科技工士が使うようなペン型の研磨機で小型の作品の細部を熱心に磨き

込む学生の姿。かと思うと、機械室外では、何やら金属が複雑に絡まつた未完成の大きなオブジェ

その名の通り、金属加工にまつわる道具が取りそろえられた町工場のような空間。第一機械室には、おもに大きな鋼材を扱いやすくするための大型工作機械の数々が、第二機械室には一般金工作業を行うための中・小型の機械が取りそろえられていて、学生たちがそれぞれの作品の種類や規模に応じた設備を整え、制作に励んでいる。

あちこちから金属音やリズミカルな槌音<sup>つちおと</sup>が響く中、どれどれお手並み拝見……と見て歩く。鉄を

小さな炉で真っ赤に焼き、金槌で叩いて丸い球状の何か(ブドウの実であるらしい)を鍛える様子には、古の鍛冶屋の趣が。

とのこと)を前に、次の手を思案する学生ありと、

それぞれ作品、制作過程とも独自路線だ。

溶接や旋盤といった伝統的な作業場に加え、最新鋭機械も稼働中。新しもの好きの本誌編集長・

F先生が「おっ」と目を留めたのは、研磨剤を含んだ水を噴き付け、その水圧で金属を加工、掘削、切断するウォータージェット加工機。向かいでは、3Dプリンターのようなオートメーション化された掘削加工機が複雑な文様を刻んでおり、工房内は新旧さまざまな金属加工装置の博覧会状態。

F先生、「これ、いくらですか」と尋ねまるの、やめてもらつていいですか? 「ここでは絞り(当て金という道具に、板材の裏側を当てながら金鎖で叩き、金属を絞り寄せて成形する技法)もできますし、緻密な溶接もできる。彫刻的な作品も多いですが、装置の一部をつくりに来たり、油画の学生が額をつくりに来たりと……本当にいろいろですね」

そう話すのは、テクニカルインストラクターの田中航先生。工芸、彫刻だけでなく油画、先端芸術表現、GAP(大学院美術研究科グローバルアートプログラム専攻)と所属もさまざまな学生たちがつくる多彩な作品群が相手となると、アドバイスを行い、評価をする先生方もさぞ大変なのでは……と思ってしまうが、田中先生は「要は、



から、学生を後輩と思つて、自分が習ったことを優しく教えていますよね。否定せず、学生の立場に立つて『こうしてみたら』『ああしてみたら』とかなりいい環境で制作できていると思う。科をまたいでいろんな人たちが集まっているのも、いい発散になつていてるんじやないでしようか?

発散? と問い合わせると「そもそも、作品をつくること 자체が発散でしょ?」と前田先生。確かに、行きたいところへ行けず、会いたい人に会えず、交流が遮断されがちな今だからこそ、ア

イデアを形にできる場、そこで相談できる相手があることのありがたさは沁みるはずだ。

前田先生曰く、共

作品として魅力的であるか、やりたいことができているかどうか」と、評価基準をシンプルに述べた。「わかりやすいもの、見るからに難しいもの、いろいろな作品がありますが、講評会では、どこまで挑戦できてるか、問題をどう捉え、考えて進めてるかといったところも重視して評価します。共通工房に来る学生は、それぞれ本当に困りたいものがあるわけですから、それを実現するために、ここでの相談が役に立てばと思いますね」

\*

利用している学生にとっては、いい環境がつくれてるのでないか——共通工房の工房長である工芸科・前田宏智教授は、開設から30年の現状認識をそう示した。



前田先生、上野にて。工具がびっしり並んだ教授室の壁面、壯觀でした



濱口竜介監督

受賞した」となります。

## 濱口竜介監督と大江崇允さんが カンヌ国際映画祭で脚本賞を受賞

濱口竜介監督は去年『ユーネッティア国際映画祭』で監督賞に選ばれた『スパイの妻』で黒沢清監督（同専攻教授）、野原位さん（同専攻3期監督領域修了）と共に脚本に参加したほか、今年のベルリン国際映画祭では監督・脚本を手がけた『偶然と想像』で最高賞の金熊賞に次ぐ銀熊賞の審査員大賞を受賞。今回の受賞で、携わった3作品

がヴェネツィアとベルリン、カンヌの世界三大映画祭すべてで主要な賞を受賞したことになります。

第4回カンヌ国際映画祭にて長

編ノンペティション部門に参加した『スライド・マイ・カー』の濱

口竜介監督（大学院映像研究科映画専攻2期監督領域修了）と共同脚本の大江崇允さんが脚本賞を獲得しました。

日本作品の脚本賞受賞は史上初めての快挙です。本作は国

際映画批評家連盟賞とエキュメニカル審査員賞、AFCAE賞も受賞しました。

濱口監督は去年『ユーネッティア国際映画祭』で監督賞に選ばれた『スパイの妻』で黒沢清監督（同専攻教授）、野原位さん（同専攻3期監督領域修了）と共に脚本に参加したほか、今年のベルリン国際映画祭では監督・脚本を手がけた『偶然と想像』で最高賞の金熊賞に次ぐ銀熊賞の審査員大賞を受賞。今回の受賞で、携わった3作品



『The Prize Show —藝大アートプラザ大賞受賞者招待展—』より

“藝大の出島”といわれる藝大アートプラザは、8月に渋谷のミヤシタパークでポップアップストアを開催、上野とは異なる幅広いお客様にお越しいただきました。

そのアートプラザでは10月3日まで、過去15年に及ぶ藝大アートアートプラザ大賞の受賞者による企画展『The Prize Show —藝大アートアートプラザ大賞受賞者招待展—』を開催中。続く10月9日～11月28日には、図鑑をテーマにした『図鑑展 Wonderland』を開催します。そして1月8日～2月13日は卒展と連動した、恒例の『藝大アートアートプラザ大賞展』。11月15～26日に作品のエントリーを受け付けます。詳しくはウェブサイトを覗くください。

## 見て、触れて、買える 藝大アートプラザの企画展

<https://artplaza.gelidai.ac.jp/news/2021/07/16.html>



## 国谷裕子理事の『クローズアップ藝大』 福中冬子教授の『ポストモダンの音楽解釈』が発売

本学ウェブサイトで連載中の、国谷裕子理事による対談「クローズアップ藝大」が本になりました。河出書房新社より発売されました。この対談は本学が比類のない「人間の宝庫」であることを発信するため、学長特命(広報・プランディング戦略担当)箭内道彦教授が企画したものひとつ。12人の教員との対談をまとめ、書き下ろしを追加した本書は、芸術家の飽くなき挑戦や、アートが社会と結びつくフックについてなど、新鮮な発見のある一冊となっています。

また、音楽学部楽理科の福中冬子教授による評論を藝大出版会から出版しました。主要な先行研究の網羅的検証を通じて80年代の音楽研究における諸傾向の相互関係を総括的に考察する」とことで、80年代を境に大きく変容した「音楽解釈」概念を再考します。

## 大学美術館(上野)の展覧会



長安右衛門《装飾文様(枕)》  
1927(昭和2)年 東京藝術大学蔵

### 本館

藝大コレクション展 2021 II期

東京美術学校の図案

—大戦前の卒業制作を中心に

8月31日～9月26日

10月28日～11月7日  
「新しい成長」の提起  
ポストコロナ社会を創造するアーツ  
プロジェクト  
11月13～28日

東京藝術大学大学院美術研究科

博士審査展  
12月10～19日

東京藝術大学卒業・修了作品展  
1月28日～2月2日

### 陳列館

GEIDAI FACTORY LAB 2017～  
2021 — MATERIAL COMPLEX —

9月22日～10月4日

日本画第三研究室展

—現状模写「国宝 信貴山縁起絵巻  
山崎長者の巻」—  
10月7～15日

ブンボニチ／文保田・展 2021

8月31日～9月26日

再演 — 指示とその手順  
みるく

— 終わりの彼方 弥勒の世界 —

9月11日～10月10日

上原利丸退任記念展

— 本友禅染の多様性と独自性 —

10月28日～11月7日

「新しい成長」の提起

ポストコロナ社会を創造するアーツ  
プロジェクト

11月14～27日  
※正木記念館でも展示あり  
第6回 東京都特別支援学校  
アートプロジェクト展  
1月5～16日

### 正木記念館

藝大オペラ定期 第67回「魔笛」  
10月9日・10日

14時  
5100円

※ライブ配信(有料)を行います。  
観聴券の購入など詳細は藝大ウェブ  
サイト「奏楽堂演奏会一覧」を「確認  
ください」。

上野の森オルガンシリーズ2021

オルガン・プラス  
10月16日

15時

一般3000円  
高校生以下1000円

藝大プロジェクト2021  
ピアノラ百年の旅路 第3回

10月24日  
15時

3000円

藝大ファイル定期 第406回

11月5日  
19時

高村光雲・光太郎・豊周の制作資料  
(仮称)

12月10～19日  
3000円

## 奏楽堂(上野)の演奏会



正木記念館

11月14～27日  
※正木記念館でも展示あり

藝大オペラ定期 第67回「魔笛」  
10月9日・10日

14時  
5100円

※ライブ配信(有料)を行います。  
観聴券の購入など詳細は藝大ウェブ  
サイト「奏楽堂演奏会一覧」を「確認  
ください」。

上野の森オルガンシリーズ2021

オルガン・プラス  
10月16日

15時

一般3000円  
高校生以下1000円

藝大プロジェクト2021  
ピアノラ百年の旅路 第3回

10月24日  
15時

3000円

藝大ファイル定期 第406回

11月5日  
19時

高村光雲・光太郎・豊周の制作資料  
(仮称)

12月10～19日  
3000円

藝大フィル合唱・定期第407回

11月11日	19時	モーニング・コンサート 第11回	3000円
11月18日	11時	ウインドオケ定期 第92回	1000円
11月20日	14時	ウインドオケ定期 第92回	一般 1600円 高校生以下 1500円
11月24日	16時	邦楽定期 第87回	2100円
11月25日	19時	シンフォニーオケ定期 第64回	一般 1600円 高校生以下 1500円
12月20日	15時	角野裕 退任記念演奏会	無料
2月19日	11時	モーニング・コンサート 第12回	1000円
2月17日	15時	モーニング・コンサート 第12回	1600円
3月14日	15時	藝大チェンバーオケ定期 第38回	2000円
3月17日	15時	藝大フィル合唱・定期 第407回	3000円
3月20日	15時	弦楽シリーズ 2021	「THE CELLO」
3月25日	15時	「究極のチェロアンサンブル」	要事前申し込み(詳細は後日)
3月27日	15時	モーニング・コンサート 第13回	モーニング・コンサート 第13回



秦淮堂

11時  
1000円  
**小鍛冶邦隆退任記念演奏会**  
3月18日  
※アーカイブ動画の配信のみとなります(当日より)。詳細は後日藝大ウェブサイト「奏楽堂演奏会一覧」に掲載されます。

\* 展覧会・演奏会の名称、会期・日時などが変更になる場合があります。最新情報は、東京藝術大学公式ウェブサイト (<https://www.geidai.ac.jp/>) をご覧ください。

\*演奏会チケットの取り扱い  
東京藝術大学演奏藝術センター  
☎ 050-5525-2300

\*演奏会チケットの取り扱い  
ヴォートル・チケットセンター  
03-5355-11280

チケットぴあ

藝大アートプラザ（店頭販売のみ）

東京文化会館チケットサービス

00  
33  
11  
55  
66  
88  
55  
-0  
66  
55  
00

<https://eplus.jp/>

◎新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本欄記載の展覧会・演奏会が変更または中止になる可能性があります。お出かけの際は上記の問い合わせ先にご確認ください。

## ○藝大基金寄附者ご芳名

東京藝術大学基金（藝大基金）へ温かいご支援を賜り、深謝申し上げます。本号では、2021年2月から7月までに寄附をいただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます（掲載をご承諾された方のみ）。

### [個人の皆様]

宗次徳二様 1000万円	城谷俊一郎様 1万円	菊谷秀雄様	中川英昭様
渡邊健二様 200万円	高木早苗様 1万円	功刀静子様	中谷涼子様
近藤久壽様 106万 5700円	高橋秀子様 1万円	桑村毅様	永吉美恵子様
須藤潮様 50万円	武内園子様 1万円	小池高之様	野島やすゑ様
恵谷真紀子様 30万円	塚本絵理様 1万円	小林裕之様	早川圭子様
石田義雄様 10万円	富澤儀一様 1万円	城土裕様	廣瀬敏章様
田中秀幸様 10万円	中澤仁様 1万円	白木由子様	廣瀬俊廣様
秋葉弘実様 6万円	永嶋裕子様 1万円	酒々井夏子様	藤波克之様
新谷英滋様 5万円	中出睦様 1万円	鈴木理夫様	堀内加代子様
針谷薰子様 5万円	冷水恵野様 1万円	隅修三様	峯佳代子様
菅野亨様・妙子様 3万円	細井史江様 1万円	世古修路様	宮城玲子様
玉置雄三様 3万円	細谷和夫様 1万円	高橋和美様	三好克美様
藤本昌志様 3万円	堀田政孝様 1万円	瀧澤順子様	森下祐子様
三宅久美様 3万円	本多佐保美様 1万円	田尻比呂子様	弓場啓司様
田口洋子様 2万円	門田伸一様 1万円	戸谷克昌様	弓場多恵子様
中村篤様 2万円	矢代一雄様 1万円	鳥山静子様	粂美智子様
磯貝紀枝様 1万円	柳澤敦子様 1万円	長浦武史様	渡辺和子様
伊藤公一様 1万円	山田京子様 1万円		
色本善信様 1万円	渡部昌吉様 1万円		
上田武夫様 1万円	秋山境様 5000円		
上原昇様 1万円	井出久實子様	[法人の皆様]	
上村浩子様 1万円	遠藤成夫様	東京藝術大学音楽学部同声会様 1500万円	
岡本治之様 1万円	大川聰様	山田産業株式会社様 200万円	
喜屋武貞男様 1万円	大澤美恵子様	株式会社山本研究所様 100万円	
京増久夫様 1万円	荻野潤一様	株式会社タムラ設計様 30万円	
坂井満様 1万円	奥村康様	株式会社アスペン様	

## ○藝大基金のお願い

「藝大基金」は、東京藝術大学の長期的・安定的な財政基盤として、教育研究活動や社会連携活動の一層の発展と、我が国における芸術文化の振興などに資することを目的に設立されました。各種プロジェクトなどの実行と、学生へのさらに充実した支援体制を築くため、広く地域社会や企業などの皆様からご寄附を募っております。藝大基金の趣旨にご理解をいただき、ご支援を賜りますようよろしくお願いします。



### 藝大生に緊急の支援を。若手芸術家に活躍の場を。 「若手芸術家支援基金」

東京藝術大学基金へのご寄附は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、展覧会や音楽会の中止などで影響を受けている在学生および本学出身の若手芸術家を支援する「若手芸術家支援基金」の原資となります。そして「若手芸術家支援基金」では、在学生への修学支援、学生などが開催する展覧会・演奏会への助成といった応援プロジェクトを実施しています。

### お問い合わせ

社会連携課涉外企画係 ☎ 050-5525-2400 藝大基金ウェブサイト <http://fund.geidai.ac.jp/>